

# まちの情景と建築

田中 修一

日本編

歴史環境

近代の夜明けの象徴

ランドマークからの横浜港

横浜の海は、明治のあけぼの以来、日本の近代化をじっと見続けている。幕末に鋼鉄の蒸気船が浦賀に来航する。産業革命を知らない日本人は、水に浮かぶ鉄の船が得体のしれない黒煙を噴き上げて、轟音と共に疾走するさまを見て驚愕した。当然だろう。しかしその後の欧米の植民地政策を察知した我が国は、必死になって富国強兵策をとる。科学技術と産業の振興を図り、列強に伍すことを同時に実行した。神戸とともに横浜港は日本の玄関となる。

- 1853 ペリー 浦賀に来航
- 1858 日米修好条約
- 1859 横浜開港 東西波止場の建設
- 1872 新橋～横浜 鉄道開通
- 1911～ 13赤レンガ倉庫1.2号館完成

近代から現代に移り、1983年、港に再整備の機運が起る。MM21(みなとみらい)構想である。全国各地のお手本として整備がすすめられ、シンボルタワーとしてランドマークタワーが1993年に完成した。地上70階、延べ面積392,884㎡、高さ296mと日本一の超高層ビルである。展望台からの眺めは横浜の未来を見つめるのにふさわしい。



## 神の降り立つ地 奈良 若草山



東大寺と春日大社を左右に見下ろすなだらかな丘である。地上に近いエリアはご覧のようにゴルフ場のような草地になっているので、登るのはいとも簡単と思いきや(実際には柵の左にある階段を歩かされるのだが)、草原部分を一気に上がるだけで息が切れる。その上はうっそうとした森林地帯で、さらに抜けるとまた草原になる。頂上にたどり着くと市街が一望で、奈良盆地の地形が手に取るようわかり、平城宮も遠望することができる。

ところで地球は丸いので、地平線までの距離は意外と短い。なんと水平面に立って望める距離はわずか4.7kmに過ぎない。しかし低いとはいってもこの丘の標高は342mで、奈良盆地一帯の標高が100m弱なので、250mほどの差があるということだ。低い雲なら十分に隠れる。ちなみに地平線までの距離を計算すると2.07海里×1.852km  $\sqrt{250m}$  = 約60kmになる。

神代の昔、見晴るかす地平の果てから昇る朝日を仰ぎ、悠久の大地を見下ろすと、神や仏が天空とともにやってくるのが容易に想像できたのではないか。250mといっても建物に当て嵌めればランドマークタワーに匹敵する高さだ。この丘が奈良盆地のシンボルなのだ実感できる。神が遊ぶ大和三山に至っては香久山(152m)・畝傍山(199m)・耳成山(140m)とさらに低い。それでも歌に詠まれるのだ。

